

# 漁況予報 いわし

## 第122号

2004年3~4月漁期  
(2004年3月12日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### 【まいわし】

主要定置網における1月のマイワシ総漁獲量は1.7トンで、前年同期の545kgよりは多かったものの依然として低調で推移しました。各定置網とも中羽マイワシ(2002年級群:16~20cm)主体に小羽マイワシ(2003年級群:12~14cm)が混じりました。2月に入ると東京湾側・金田湾(1統)で3トン弱の漁獲があった以外は極めて低調に推移し、月合計で1トンを越えた定置はありませんでした。

また、中型まき網による漁獲は、1、2月を通してありませんでした。

#### 【かたくちいわし】

主要定置網における1月のカタクチイワシ総水揚げ量は、48トンで昨年同期(97トン)は下回りましたが、1月としては高水準となりました。2月に入ると、特に中旬以降まとまった水揚げが見られるようになり、鎌倉・腰越地区では1日10~20トンの水揚げがある日も出てきました。金田湾でも19日以降連日1トン以上の水揚げが続きました。その結果、2月の総水揚げ量は170トン(速報値)で昨年同期(160トン)並みに高い漁獲水準となりました。

佐島地区のまき網は、大きな群れでの来遊が少なかったことから昨年同期に比べ漁獲量は減少しましたが、餌イワシとして生簀に活かしました。

#### 【しらす】

1、2月はしらすの禁漁期間中ですが、当所では長井~平塚地区にかけて特別採捕許可による試験操業を実施しました。1月は秋谷沖、平塚沖で計65kgの採集があり、この9割以上が珍しくマシラスでした。全長は平塚沖が28~30mm、秋谷沖は20mm前後主体で、後者は表層曳きにより採集されました。2月の操業では、まとまったシラスの反応はなくなり採集量も1回当たり多くて5kgと1月時に比べ激減しました。魚種はウルメシラスが多く獲れました。3月の操業でカタクチシラスの割合が増加しましたが、全長30mm以上の越冬群主体で、新規の加入個体は殆ど見られませんでした。

今年の操業では、例年と比べマシラス、ウルメシラスが非常に多く採集されされましたが、これは高知県・土佐沖でも昨年暮れから両種シラスが豊漁であることから、黒潮に乗り相模湾に来遊したものと考えられます。一方で、カタクチシラスの採集量が非常に少ないことが今後のシラス漁を考えた時の不安材料でもあります。

なお、親魚量は昨年と比べ若干少ないものの、黒潮は今後蛇行傾向になることが予想されていますので、海況はシラス漁にとって昨年よりはプラスに働くものと思われる。

### ＝ 予報 ＝

#### まいわし

今漁期は、中羽イワシ(2002年級群)が漁獲の主体となり、これに1歳魚が混じるでしょう。

定置網主体に散発的に入網するものと思われます

今漁期の漁獲量は、約5トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網+まき網

#### かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約515トンと予測されます。

#### しらす

今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

試験操業の結果及び大型成魚の資源量指数値からして、3月中はマシラス、ウルメシラス主体で低水準で推移するでしょう。4月以降、カタクチシラスが主体となり上向くでしょう。

今漁期の漁獲量は、カタクチシラス主体で約110トンと予測されます。

過去5年の3・4月漁期の漁獲量  
と今漁期の予測量



